

専攻科修了生のみなさんへ

今年度は新型コロナウイルス感染症への対応として、式に参加されるみなさんの健康と安全を最優先に考え、修了式を中止することにしましたが、みなさんへ贈る言葉として、毎年の修了式での式辞の形式でお伝えしたいと思います。

高知の地に春の訪れを感じる中、令和元年度の専攻科修了生を送り出すことができ嬉しく思います。専攻科機械・電気工学専攻7名、物質工学専攻2名、建設工学専攻4名のみなさん、専攻科修了おめでとうございます。

専攻科に入学してから修了の日まで、温かく見守ってこられた保護者の方への感謝を忘れないください。また、日頃から本校の教育・研究・地域貢献活動を通じて、みなさんを見守っていただいた地域の方々のご理解とご支援があったからこそその修了だということを心に留めてください。

さて、専攻科修了に当たり、ディプロマポリシー、すなわち専攻科の修了認定方針を確認してみましょう。

それは、「①充実した基礎学力を持ち、問題に自ら立ち向かっていく積極的な行動力を身につけ、②豊かな表現力、創造力及び指導力を発揮でき、問題設定力、判断力、実行力、チーム力などを身につけ、③地域の問題を理解し、さらに地球全体を視野に入れて環境を総合的に配慮でき、エンジニアリングデザイン能力を身につけ、④何事にも協調性をもって取り組むことができ、国際的適応力及びマネジメント能力を身につけ、⑤高い倫理観に基づいた規範を持って行動し、社会的責任を果たすことができる者」となっています。

すなわち、専攻科を修了したみなさんは、「エンジニアとして基礎学力をもち、社会の課題を積極的に解決する実行力のある」人材として社会に出て行くと言っています。

みなさんが社会に出て期待されていることは、入社試験に示されています。それは、「今あるこれこれの課題にどのように取り組みますか。あなたの考えを述べてください」というものです。これは正解のない問題にどのように取り組むかという能力をみたいというものです。

これに回答するために、ある人は、次のようなやり方で提案をするかもしれません。

「まず、その課題に関する事実を収集する。次に、それらの事実を基にして、その課題発生の仮説を立てる。そして、その仮説が正しいかどうか実験し、課題が解決に向かうならその仮説

は正しい。まだ課題が残るときは、今の実験で得たことも事実に加え、仮説を修正する。これを課題が解決するまで繰り返す。」

また、ある人は次のようにするかもしれません。

「自分だけの意見だけでなく、いろいろな人の考え方とか意見を聞く。聞くだけでなく、一緒に議論する。議論してブラッシュアップし、これぞ私の解決案というものに集約する。」

他にもやり方はあると思いますが、仮説を立てる方法はみなさんがやってきた特別研究と同じやり方です。事実を重視し、それを基に考え抜くというやり方です。議論してブラッシュアップするやり方も研究と同じです。

つまり、研究の手法は、世の中の課題解決や次の世界の実現にそのまま使える技術です。特別研究で培った考え抜く力と議論する力こそが、社会がみなさんに期待しているものです。考え抜く力と議論する力でみなさんの未来も切り開いてください。

今後さらに時代を先取りした人材になるためには、自分の専門を深めると共に、たくさんの他の分野を勉強し身につけるよう、自分を鍛える必要があります。幸い、みなさんは在学中にこのことを経験されてきたと思います。これからも、他の分野に積極的に関心を持つようにしてください。

さて、めでたく13名の学生諸君が本校専攻科を巣立っていかれますが、この高知高専の地で築くことができた同級生の結びつきを大切にしてください。社会に出てからもお互いに支え合い、生涯を通じての友達でいてください。また、学校へも顔を出して、いろいろな話を先生や後輩の学生にしてください。待っています。

これからみなさんが世界で活躍され、悔いのない素晴らしい人生を歩んでいかれることを祈念して、私からの贈る言葉といたします。

令和2年3月15日
高知工業高等専門学校長
井瀬 潔